

彼の生き方から見えること

指宿市立北指宿中学校 3年 櫻井 健緒

ウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領が今年五月に亡くなった。彼は世界一貧しい大統領として有名だ。私はそのニュースで彼の存在と大統領としての生き方を初めて知った。

私が特に心に残ったのは、「貧しい人とは、限りなく多くを欲しがる人だ。」という彼の言葉。ムヒカ元大統領の警備は最小限。給料の九十パーセント以上を貧困層支援や中小企業支援の団体へ寄付し田舎の農場で暮らす。大統領なのに、世間からすれば質素で貧しく見えててしまう。それが世界一貧しい大統領と呼ばれてしまう理由だろうが、彼は先ほどの言葉から聞くように、自分を貧しいとは思っておらず、何を欲しがることもなく、ただ政治とは国民のために働くこと、それが自分の幸せだと考える人だから語れる言葉のように聞こえる。もし私が総理大臣だったら同じことができるのだろうか。

これらのことを見て、私は日本の税金の使い道について考えるようになった。私たちが払う税金は、ちゃんと国民のために使われているのだろうか、もっと良くする方法はないのだろうかと。私達の使う教科書や給食費、医療費、ごみの収集など、とても大切に使われているものもある。実際、私も陸上練習中に転倒し骨折した時、何度も治療や通院したが医療費が税金から支払われ完治まで不安なく過ごせた。一方で、ニュースでは税金の無駄遣いという言葉を聞く。調べてみると、使われない公共施設、政務活動費の不正利用、豪華な観光旅行のような視察や研修などあるようだ。なぜこんなことが起こるのだろう。必要なものに使うのではなく、あるから使ってしまうようだ。きっと誰のための税金かを考えられていない部分がある。

ムヒカ元大統領は、税金を国民の汗と努力の結晶と言った。最も困っている人たちのためにあると。私たちの住む日本には同じように考え方行動してくれる政治のリーダーがどれほどいるのだろう。どうせ何も変わらないと諦めかけている国民がどれだけいるのだろう。そして、私たちには何ができるだろう。

中学生の私には直接税金の使い道を決めるすることはできない。選挙に行くこともできない。しかし、子供だから何もできないわけではないと思っている。まず税金のことに関心を持つことだ。それが一番大切なこと。私たちが大人になった時、無関心が大人ばかりが増えていたら日本はどうなっている。

ムヒカ元大統領は、世界中多くの関心を集めることができた。彼は心に響く言葉をたくさん残して亡くなつたが、その言葉を行動で示したことが多くの人の心に響いた。私もその一人であり、世界中の人に自分にできることを考えるきっかけを与えたはずだ。税金は、良いも悪いも私たちの未来に直結する問題。大切なのは皆が一歩前へ踏み出すことだ。